

【芝浦創造の森】におけるグリーンスクールの取り組みについて

会津森林管理署南会津支署
芝浦工業大学柏中学校
南会津森林組合

(発表者)
地域技術官 伊藤 秀明
主事(経営) 田中 友希

1. はじめに (芝浦創造の森について)

▼【芝浦創造の森】は平成20年に学校法人 芝浦工業大学と会津森林管理署南会津支署が契約を締結した分収造林です。
植林から今日に至るまでグリーンスクール(森林教室)の活動として南会津支署及び南会津森林組合の指導のもと芝浦工業大学柏中学校の生徒の手によって手入れが行われ、健全な森へと成長を続けています。

分収林所在地	福島県南会津郡南会津町 湯ノ花字新道澤国有林 1019㊦9林小班
分収林面積	0.9129 ha
契約者	学校法人 芝浦工業大学
契約期間	平成20年5月19日から 令和4年5月18日まで
植栽樹種	スギ
植栽本数	2,739本(3000/ha)



2. グリーンスクールの活動記録

H20年



- ・分収造林契約締結
- ・柏中学校第10期生により植林される

H21年
～
H24年



- ・雪起こし
- ・【芝浦創造の森】看板が設置される

H25年
～
H27年



- ・裾枝払い
- ・倒木起こし
(雪圧により傾斜した立木を
縄で起こす作業)

H28年
～
R元年



- ・裾枝払い
- ・コロナウイルス流行の為、
令和2年から令和4年まで一時活動休止

R5年
～
R7年



- ・裾枝払い
- ・枯損木の除伐

【写真提供：芝浦工業大学柏中学校】

3. 関係団体の取組みについて

芝浦工業大学柏中学校

- ・【芝浦創造の森】を教材とした授業の展開
- ・文化祭でグリーンスクールについて生徒によるプレゼンテーション発表



南会津支署

- ・グリーンスクール活動報告を南会津支署ホームページに掲載
- ・森林調査の実施



南会津森林組合

- ・グリーンスクール実施前の作業道具の点検、現地確認及び安全点検
- ・危険木伐倒、下草の刈払い
- ・危険個所のテープ標示



4. 南会津支署の取組み (森林調査について)

①調査目的

- ・森林の成育状況と森林被害の確認

②調査方法

- ・OWL(地上型3Dレーザ)による標準地2箇所の立木調査
- ・森林被害の目視調査



③調査結果 (令和7年12月調査、林齢:スギ18年生、標準地面積合計0.02ha)

	標準地①(10m×10m)		標準地②(10m×10m)		合計(①+②)	
胸高直径(cm)	生立木(本)	枯損木(本)	生立木(本)	枯損木(本)	生立木(本)	枯損木(本)
8				1	0	1
10		1	2	1	2	2
12	2		2	2	4	2
14	5		8	1	13	1
16	11		6		17	0
18	6		4		10	0
20	7				7	0
小計	31	1	22	5	53	6

図2.標準地調査結果表 面積拡大係数:45.645(0.9129ha/0.02ha)

生立木の各胸高直径の割合

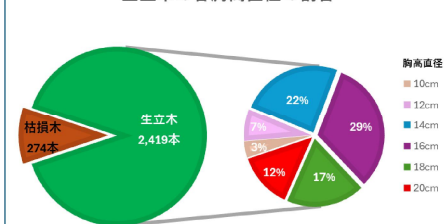


図3.直径拡大による小班全体の推定本数と生立木の胸高直径の割合

- ・小班全体の推定本数⇒ **2,693本(生立木2,419本、枯損木274本)**
- ・生立木の約6割が胸高直径16cm以上⇒ 会津森林計画区収獲予想表の平均胸高直径13cm(地位級2、IV齢級)と比較して良好な成育!

- 【参考資料:第6次国有林野施業実施計画(会津森林計画区)、森林調査簿(会津森林計画区)】
- ・標準地②では枯損木が多い⇒ 風雪による被害を受ける箇所であると確認
- ・獣害等による立木被害は見られなかった⇒ 立木被害未然防止対策の検討

④まとめ(グリーンスクールの今後について)

- ・森林調査から【芝浦創造の森】が良好に成育している事が確認できた。
- ・関係団体に森林調査結果を共有し、引き続き枯損木の除伐を実施すると共に、生立木については新しい活動の実施を協議して今後のグリーンスクールをブラッシュアップしたい。

今後の活動

生立木

枯損木

新しい活動の実施

- ・獣害対策資材の設置
- ・収獲調査の体験
- ・森林組合による伐倒の見学等

活動の継続

- ・生徒による除伐の実施継続